

「研究者に必要な能力とはなにか」

神戸大学 海事科学研究科 海事科学専攻 博士前期課程1年

※2019年度に京セラ株式会社にて研究インターンシップを経験

1. はじめに

私は京セラ株式会社でのインターンシップに参加しました。将来、企業の研究職で活躍することを目指しており、学生時代に“自身の研究者としての将来像を明確にすること”、“企業が研究者に求めるものを見つけること”の2つを目的として、参加を決意しました。

背景として、大学では“世の中に大きな変化を及ぼす研究がしたい”、“地球環境にアプローチ出来る研究がしたい”、という思いから、洋上風力発電の研究を選択しました。また、自身が将来どういった仕事に就きたいかを考えたとき、「メーカー系の企業で再生可能エネルギーに携わる研究がしたい」、と考えるようになりました。しかし、大学では研究でプログラミングに触れてはいましたが、実践でやっていける自信がなく、実際に企業での研究がどのようなものか、詳しく分かっていませんでした。

2. インターンシップについて

インターンシップでの研究テーマは、機械学習を用いて太陽光発電にアプローチする研究であり、普段の研究とは異なっていました。事前準備からインターンシップ中まで、勉強が必要でしたが、同社の方々からの親身なご支援、ご指導を支えに課題に向き合い、最終的には一つの成果を生み出すことが出来ました。

インターンシップを通して、特に、積極的に行動する姿勢、綿密な研究計画、コミュニケーション能力の重要性を学びました。

研究の進め方は、仮説→計画→検証→考察→計画・・・というプロセスを繰り返しており、大学の研究と全く同じでした。ただし、企業の場合だと、その成果が影響を与える範囲は個人から、会社全体、社会へと広がる事を再認識しました。その上で、グループで1つの研究テーマに取り組む為、自身の取り組みの報告をしていく中で、結果を分かりやすくまとめる力と、自分の考えている事を正確に分かりやすく説明する力が必要だという事に、改めて気付きました。また、細かなスケジュール管理はされなかった為、自分から考えて行動することが必要でした。自分から研究へのアプローチ方法を提案する必要があり、研究能力以外に、常にコミュニケーションを取る事が出来る能力が求められると感じました。

3. さいごに

私個人として、研究に必要な事は、どれだけ革新的なアイデアを打ち出すことが出来るか、だと考えています。特に、修士卒の場合、その能力は直ぐに求められるものではなく、どれだけ周りの人々から吸収できるかに左右され、常に様々な情報を取り入れるアンテナを広げておくことが重要です。

今回のようなインターンシップは、自分が将来就きたいと考える仕事が、本当に自分に合っているか確かめるきっかけであると同時に、会社について知る貴重な機会であると考えています。挑戦したいという気持ちさえあれば、自信がなくとも挑戦する価値は十分にあると思います。これからインターンシップに参加する人は、出来る限り後悔のないように、積極的に取り組んで欲しいです。

また、企業内での様々な研究者、社員の方々と親交を深めることが出来、私の所属する研究室にも興味を持って頂けた事が、特にかげがえのない成果だと考えており、このインターンシップを機に、更に産学連携を強めていく事が出来ればよいと思います。

最後に、大変貴重な機会をご提供して頂いた京セラ株式会社の方々、指導教員、産学連携インターンシップ関係者の方々に感謝致します。